

平成 26 年 1 月 23 日

加盟チーム 責任者 各位  
JBA 公認コーチ 各位

公益財団法人日本バスケットボール協会  
総務部

スポーツによる脳損傷を予防するための提言に関する情報提供について

平素より当協会の事業にご理解、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

先般、一般社団法人日本脳神経外科学会よりスポーツによる脳損傷を予防するための提言が発表され、文部科学省スポーツ・青少年局を通して別添のとおり情報提供がありました。

加盟チームおよび JBA 公認コーチの皆様にも情報としてお送りいたしますので、バスケットボールの指導現場等においてもご留意いただきますようお願いいたします。

<別添資料>

- ・ スポーツによる脳損傷を予防するための提言

<本件に関する問合せ>

公益財団法人日本バスケットボール協会 総務部

TEL 03-3779-3101 (9:30~17:30 ※土日祝日を除く)

FAX 03-3779-3636

平成 25 年 12 月 16 日

## スポーツによる脳損傷を予防するための提言

一般社団法人日本脳神経外科学会

日本脳神経外科学会ならびに日本脳神経外傷学会は、「スポーツによる脳損傷」を予防するための研究を行い、それにもとづいて可能な限り最善の診療を行うよう努力してきた。

しかし、医師は、患者ならびに関係者の行動を規制することができない。したがって、的確な診療を行うには、国民の理解が不可欠である。この提言は、「スポーツによる脳損傷」について、国民が認識しておくべき必須の事項を整理したものである。

- 1-a. スポーツによる脳振盪は、意識障害や健忘がなく、頭痛や気分不良などだけのこともある。
- 1-b. スポーツによる脳振盪の症状は、短時間で消失することが多いが、数週間以上継続することもある。
- 2-a. スポーツによる脳振盪は、そのまま競技・練習を続けると、これを何度も繰り返し、急激な脳腫脹や急性硬膜下血腫など、致命的な脳損傷を起こすことがある。
- 2-b. そのため、スポーツによる脳振盪を起こしたら、原則として、ただちに競技・練習への参加を停止する。競技・練習への復帰は、脳振盪の症状が完全に消失してから徐々に行なう。
3. 脳損傷や硬膜下血腫を生じたときには、原則として、競技・練習に復帰するべきではない。